

「自分の姿みえますか」

松尾 英子

先日、嫁いだ娘を見送りに空港へ行った時の事です。ロビーで30歳代の女性が「ANAカード」の入会の勧誘をしていました。説明を聞き手続きをした後、デッキから娘を乗せた飛行機が飛び立っていく光景を眺めていました。小さくなっていく機体を見ていると涙が溢れ、人目も気にせず涙を拭いていた時、先程の女性がやってきて、「また、娘さんに会えますから…」と微笑んで励ましてくださいました。ふっと心が和んだ覚えがあります。

数日後、彼女から「カードがご縁ではございますが、空港でお会いできた事、とてもうれしく思います。私も結婚しており、母とは離れて暮らしております。なかなか親孝行できておらず、これからはどんな小さな事でもいいので何かをしていこうと思いました。もう一度、自分を見直そうと思います。お会いできなかったら、きっとこんなことは考えなかったと恥ずかしながら思いました。ありがとうございました。」と書かれた手紙が届きました。

私の泣き姿が一人の女性の心に映ったこと、大変嬉しく思います。

親鸞さまは、「みんないい顔をするな、悲しい時には見栄も外聞もない。思いっきり泣けばよい。煩惱具足の仲間なんだから。何にも自分を飾らなくてよい。素顔のままでよいではないか。」と教えられています。お互いに自分を飾る必要のない時に、私達は初めて本当の対話をすることができるのではと思います。